

巻頭言にかえて

著者	今井 良彦
引用	学術情報センター年報情報. 22, p.1-1
URL	http://hdl.handle.net/10466/15062

巻頭言にかえて

学術情報センター長 今井良彦

第5期科学技術基本計画（平成28年度～32年度）では、10年先の認識として、ICTの急速な進展により知識・価値の創造プロセスが大きく変化してオープンサイエンスの時代に入るとしており、研究開発活動を支える共通基盤技術・施設・設備、情報基盤の戦略的強化の取り組みが必要と説いている。

これまでも、研究に関するオープン化は進められて来っており、雑誌論文あるいは機関リポジトリといった形で、研究成果の公開と流通は既になされている。

今後の潮流は、データを中心とする成果のオープン化や研究プロセスのオープン化を含めたオープンサイエンスへ進むものと考えられる。

オープンサイエンスの実現にはデータサイエンス、サーバセキュリティ、コンピュータフォレンジクスなどの関連分野の大幅な強化が必要であり、また関連する教育も必要となる。

書籍を含めたこれまでの図書館機能、ネットワークやアプリケーション主体の情報システム機能に加えて、オープンサイエンスへの対応は学術情報センターの大きなミッションのひとつとなって来る。

学術情報センターだけで実現出来るものではないが、学内外の機関との連携も含めて、学術情報センターの重要性と責任はますます大きいものになって来ることは論を待たない。